王子公園再整備事業 基本設計(東エリア)(案)について

１．趣旨

王子公園は、2022 年に策定した「王子公園再整備基本方針」及び 2024 年に策定した「王子公園再整備基本計画」に基づき、公園施設の老朽化や時代の変化に対応し、誰もが気軽に憩い、くつろげる魅力的な公園へとリノベーションするため、再整備に取り組んでいる。

2025 年度より、緑の広場や立体駐車場、スタジアムなど公園内の複数施設について一括して設計・施工を行う再整備事業を進めており、このたび、緑の広場や立体駐車場等を含む東エリアを対象に、王子公園再整備事業基本設計（東エリア）（案）を策定した。

２．コンセプト

Open　　みんなが気軽に立ち寄れるオープンな公園
Join　　ひと・まち・緑・景観をつなぐ公園
Inclusive　　みんなの「したい」をかなえる公園

３．設計の概要

〇緑の広場
・駅・大学・動物園をつなぐ公園の顔となり芝生を中心に誰もが自由に利用できる広場

〇動物園ゲート
・六甲山と調和するのびやかな大屋根によって来園者をあたたかく迎えるメインゲート

〇シンボルプロムナード
・シンボルとなるサクラ並木や四季折々の植栽に彩られた歩いて楽しいプロムナード

〇立体駐車場棟
・一般車 500 台を収容し屋上テニスコートを有する周辺の景観と調和した立体駐車場

〇青谷川沿い
・様々なシーンで利用できる多目的広場と川の音を聴きながら緑の中を散策できる遊歩道

〇植栽計画
・公園のシンボルとなる大径木の保全やサクラの拡充、四季を楽しめる植栽により従前と同等の樹木本数を確保

〇防災計画・照明計画・高温常態化対策
・オープンスペースの十分な確保や防災施設の配備による防災機能の強化、美しく温かみのある夜間景観の創出、屋根付きパーゴラの設置や植樹などによる日陰の充実

４．今後のスケジュール

2026 年６月 17 日～７月 10 日　：ホームページによる意見募集
2026 年９月　：基本設計(東エリア)の策定（予定）
※西エリアについては、今後設計が整い次第公表予定。

王子公園再整備事業 基本設計(東エリア)(案)

あつまる、つながる、うまれる。
王子公園再整備

I.コンセプト及び計画概要

OPEN　みんなが気軽に立ち寄れるオープンな公園

- 公園全体が多様な活動を支える舞台となり、市民の日常生活に寄り添った公園をめざします。
- 日常利用だけでなく、災害時の避難場所や防災拠点として市民の安心を支える公園をめざします。
- 開放性が高くみんなが気軽に立ち寄れる公園をめざします。

JOIN　ひと・まち・緑・景観をつなぐ公園

- 「公園×ひと」「公園×施設」「公園×まち」など、多様なつながりが生まれる公園をめざします。
- 訪れる人、学ぶ人、暮らす人が自然とあつまってつながっていく、シンボルとなる公園をめざします。
- 六甲山の山並みと調和した良好な緑や景観をまもり・うみだし、未来へつなぐ公園をめざします。

INCLUSIVE　みんなの「したい」をかなえる公園

- 「遊びたい！スポーツしたい！のんびりしたい！」をかなえる、みんなのレクリエーションの新たな拠点となる公園をめざします。
- 誰もが、いつでも、身近に活動を楽しめる場となり、まちの元気を生み出す公園をめざします。

■敷地概要

- 所在地：神戸市灘区王子町2・3丁目、青谷町1丁目他
- 敷地面積：158,400㎡うち対象範囲36,700㎡
- 公園種別：都市公園(総合公園)
- 用途地域：第2種住居地域
- 防火指定：準防火地域

■施設概要

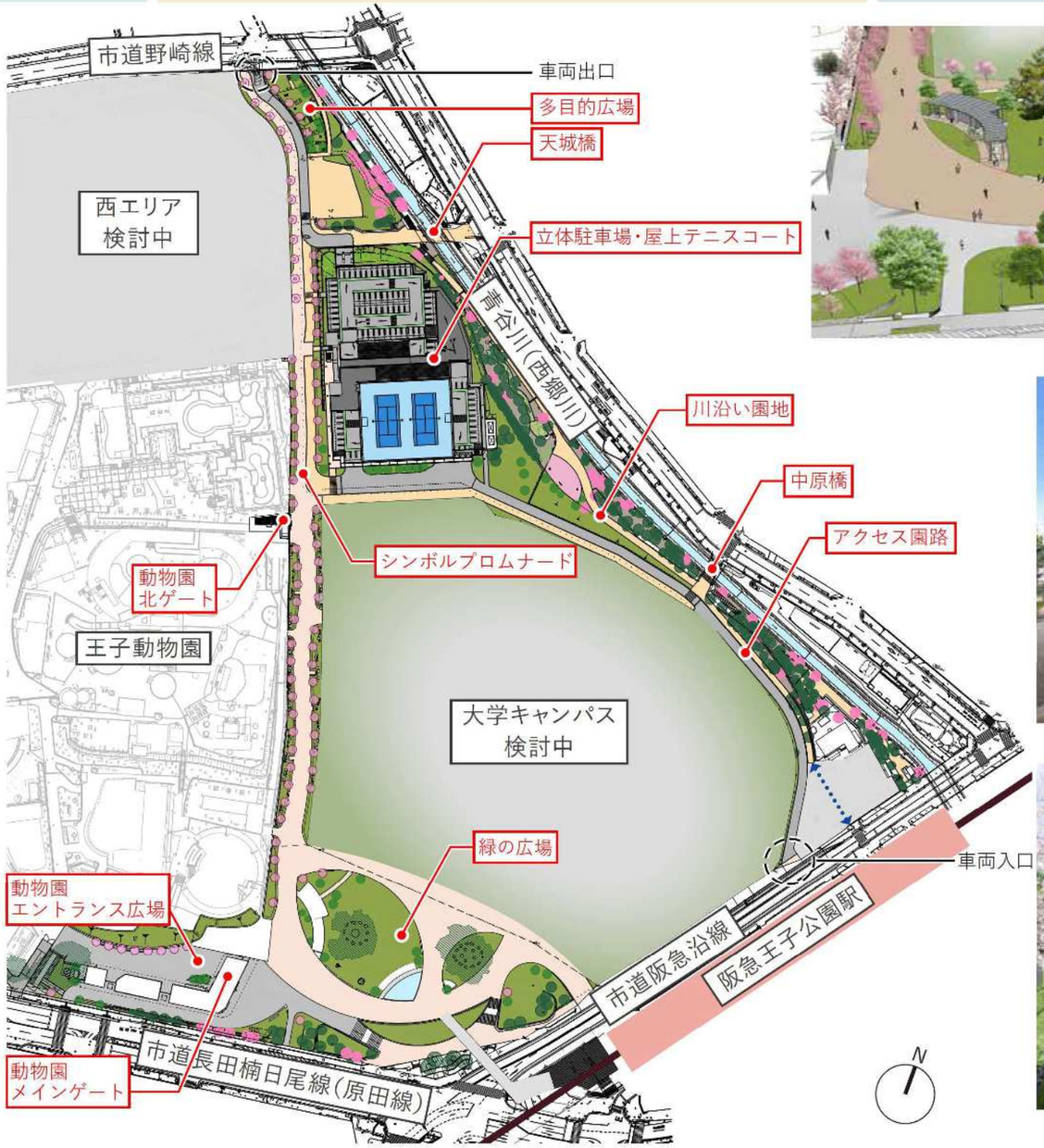
【園地・園路等】

- 緑の広場：約11,000㎡
- シンボルプロムナード：延長約350m
- アクセス園路：延長約300m
- 川沿い園地：延長約350m
- 多目的広場：約1,800㎡
- 天城橋：架替え
- 中原橋：改修

【主な建物】

	動物園メインゲート	動物園北ゲート	立体駐車場	緑の広場トイレ棟
構造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	木造
階数	地上１階	地上１階	地上5階	地上1階
延床面積	879 ㎡	83 ㎡	13,864 ㎡	160 ㎡

動物園メインゲート　イメージ



緑の広場　イメージ

立体駐車場棟　イメージ

シンボルプロムナード　イメージ

II.緑の広場

1. ひろばの考え方

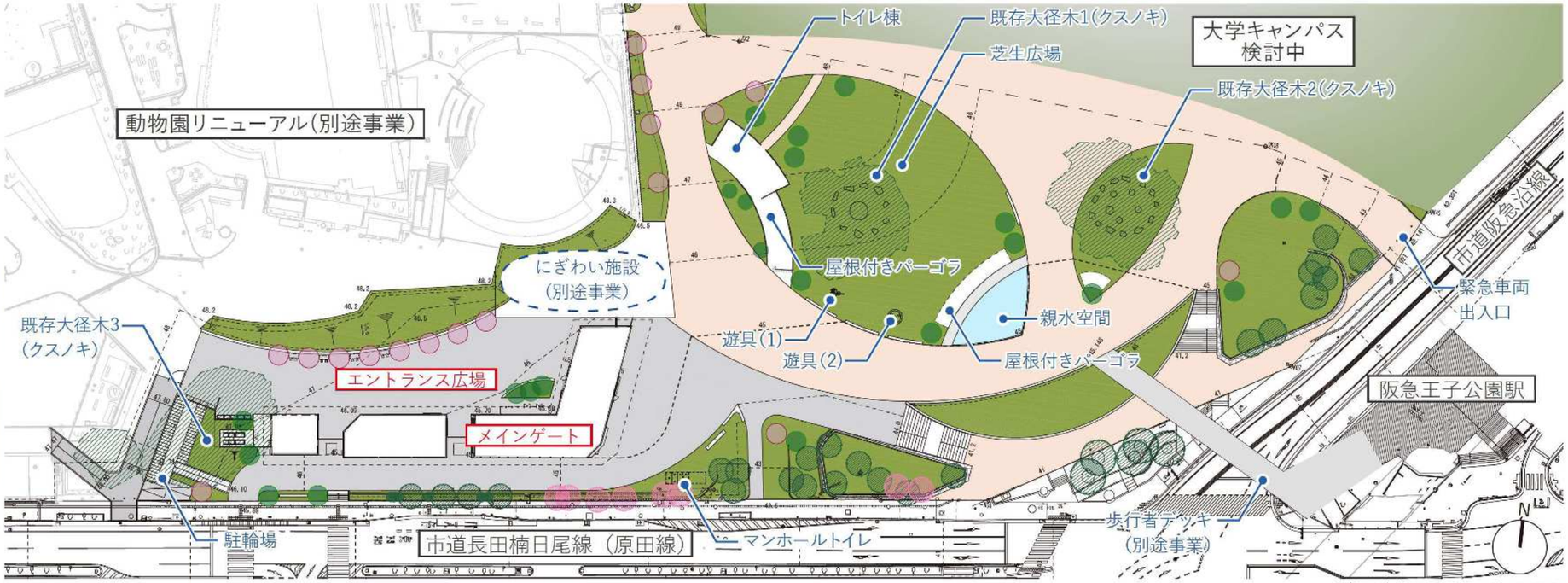
- 阪急王子公園駅に隣接する利便性の高い場所に立地する「緑の広場」は、芝生広場(約4,000㎡)を中心とした開放的な空間とし、駅、大学、動物園をつなぐ公園の顔として、景観に配慮し、大学キャンパスと一体となった高質で魅力的な空間を整備します。
- 周辺の道路と緑の広場を芝生の法面で優しくつなぐことにより、周囲から公園の風景や活動の様子が感じられるよりオープンな設えとします。
- 公園の玄関にふさわしいデザイン性の高い親水空間や遊具等を配置し、イベントに利用できる舗装スペースを確保します。また、既存モニュメントについては、状態に応じて再編を検討します。
- 緊急車両動線は、市道阪急沿線に面して出入口を設け、大学との境界部に通路を整備します。
- 長年にわたり公園のシンボルとなっているクスノキの大径木を保全します。
- JR 灘駅から動物園メインゲートへのアクセスは、市道長田楠日尾線(原田線)沿いの既存樹を活かした動線とします。

緑の広場　イメージ

2. 親水空間と屋根付きパーゴラ

- 子どもたちには楽しく水に親しめる場となるとともに、見ている人たちに涼しさや癒し効果を与え、公園の景観を魅力的にする親水空間を整備します。
- 親水空間の背後には、直射日光を避けて子どもたちを見守ることができるよう、屋根付きパーゴラとベンチを設置します。

親水空間　イメージ



緑の広場　平面図　S=1:1000

3. トイレ棟

- 景観に配慮しながら、にぎわい施設(別途事業)にも近く、どこからもアクセスしやすい位置に配置します。
- 屋根付きパーゴラと一体的なデザインとし、待ち合わせやくつろぎのスペースとして整備します。

トイレ棟　イメージ

4. 歩行者デッキ(※別途事業)

- 阪急王子公園駅前からスムーズにアクセスできるよう、新たに歩行者デッキの整備や周辺の交差点の改良等を行います。

歩行者デッキ　イメージ

III.動物園メインゲート・エントランス広場・北ゲート

1. メインゲート

1. 風景に調和した新たなランドマーク

- 六甲山と調和するよう、建物の高さを抑えるとともに、軒先のラインを強調した伸びやかな屋根とします。
- 大屋根によって緑の広場から動物園内の広場をつなぐ、一体的かつ来園者をあたたかく迎えるやわらかい形状とします。

2. わかりやすい配置

- 主要なアクセスである阪急王子公園駅や緑の広場からも視認しやすい位置にメインゲートを配置します。
- JR灘駅からつながるミュージアムロードと公園内のシンボルプロムナードを結ぶ動線に沿った建物形状とし、動物園や緑の広場にいざないます。
- 大屋根の下に3つの建物を分割させることで、建物の間から動物園のにぎわいが周囲の園路へにじみだす設えとします。

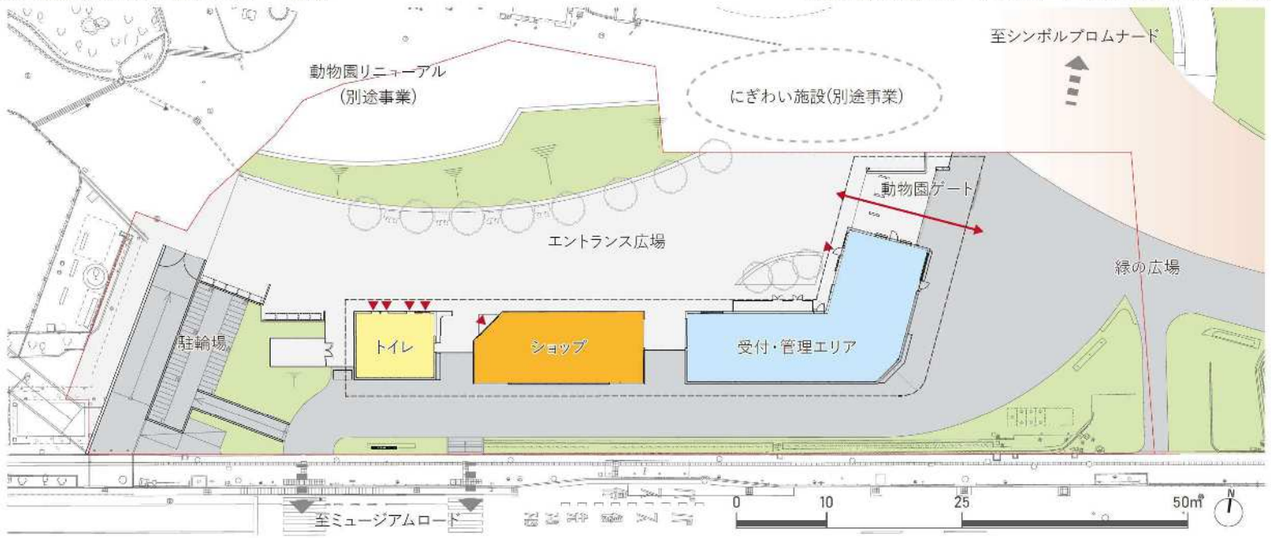
3. メインゲート・エントランス広場の機能

- メインゲートは、受付窓口・ショップ・来園者用トイレの3棟で構成します。
- トイレ棟には、男性用・女性用・子供用・多目的トイレおよび授乳室を備えます。
- 動物園ゲート内にはエントランス広場を配置し、広場北側にはベンチや樹木を整備します。

東外観：緑の広場や駅のある東を正面とするゲート部分

南東外観：温かみのある色彩とやわらかな形状の屋根

南西外観：南側ミュージアムロードからのアクセスに沿う建物配置



2. 北ゲート

1. シンボルプロムナードに溶け込むゲート

- シンボルプロムナードの並木に溶け込むよう、公園の風景と調和する高さを抑えた屋根形状とします。

2. 配置と機能

- 動物園の北側とシンボルプロムナードをつなぐ配置とし、シンボルプロムナードに沿って南北に伸びる庇を設けます。
- 庇下空間を確保し、日よけや雨よけの機能をもたせます。
- 動物園内の動線に沿ってショップを配置します。

南東外観：高さを抑えたのびやかな庇とプロムナードに沿った滞留スペース

東外観：並木道に溶け込むボリューム

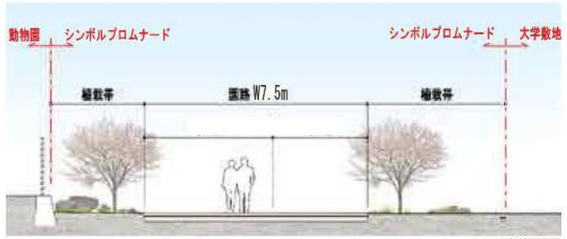
南西外観：動物園からの退園動線に沿うL型の形状

Ⅳ.シンボルプロムナード

- 六甲山の山並みと調和し公園のシンボルとなる緑豊かで歩きたくなるプロムナードを整備します。
- 両サイドに、サクラ並木を主とした広幅員の植栽帯を設け、四季折々の風景を楽しめる植栽空間とします。
- 造成工事の際に掘り出される自然石を積極的に景石として活用し、特色ある景観を形作ります。
- 災害時には、緊急車両が円滑に通行できるよう、十分な幅員を確保します。

1. 緑の広場～立体駐車場（区間 A）

- 平時は、車両の通行がない歩行者専用区間とします。
- 公園らしい、ゆるやかに蛇行する曲線形状とし、両サイドにサクラ並木を主とした緑豊かな広幅員の植栽帯を設けます。
- 要所にベンチを設置し、休憩機能を持たせ、ゆったりとした時間が過ごせる設えとします。



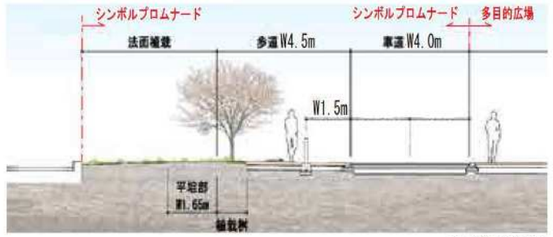
A-A'断面図

シンボルプロムナード区間A　イメージ

休憩機能を持つベンチ　イメージ

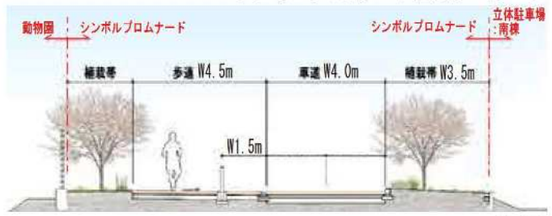
2. 立体駐車場～市道野崎線（区間 B, 区間 C）

- 当該区間は、平時より車両が通行するため、ポラードで歩車道を分離し、歩行者の安全を確保するとともに、南北につながるサクラ並木を設けます。
- 区間Bは、原則バスのみの車両通行とします。立体駐車場の歩行者出入口（3か所）から西側の歩道へ安全に横断できる設えとします。
- 区間Cは、立体駐車場一般車両出口からの一般車両とバス車両が通行するため、車道と歩道をより明確に区別する設えとします。
- 市道野崎線への退出部分については、歩行者の安全を確保するため、歩道形状が連続する構造とします。



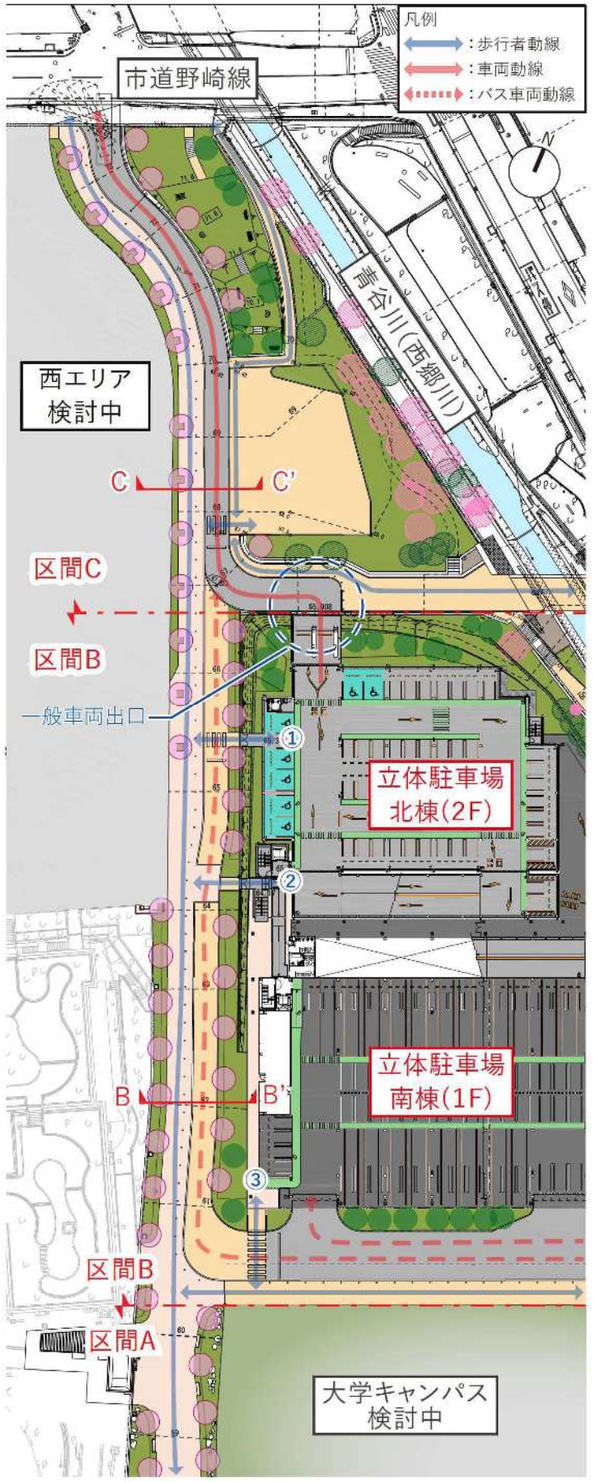
C-C'断面図

シンボルプロムナード区間C　イメージ



B-B'断面図

シンボルプロムナード区間B　イメージ



V.立体駐車場・屋上テニスコート

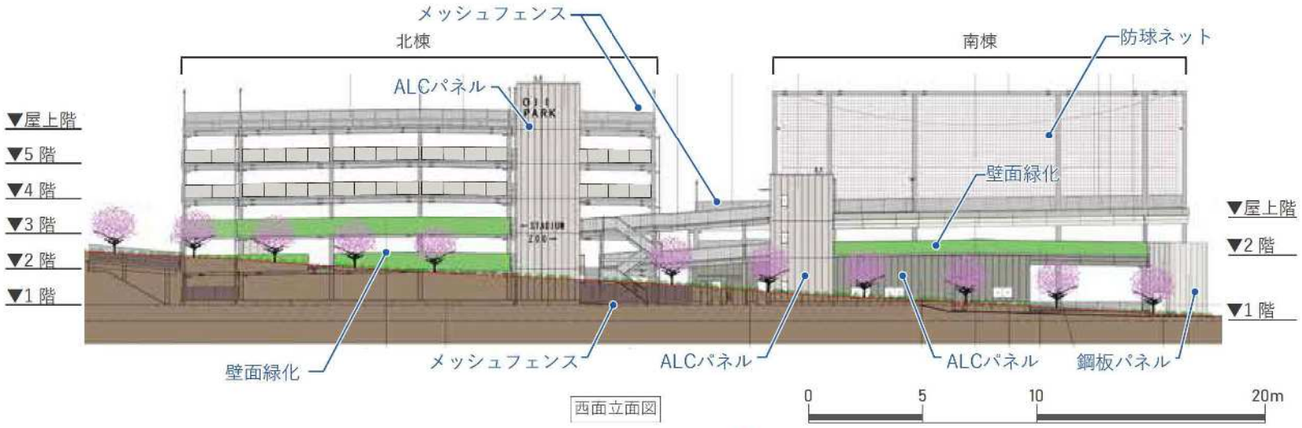
1. 立体駐車場

■周辺環境に配慮した建物規模・配置計画

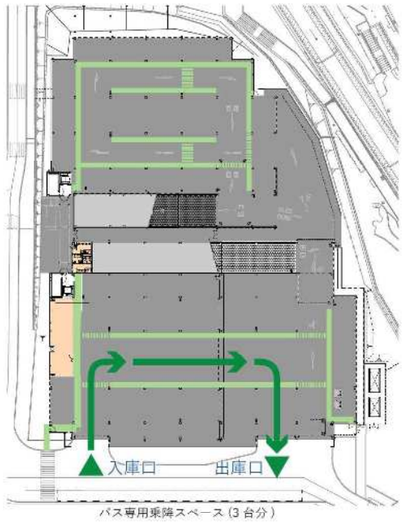
- 一般車500台(バス利用時は一部大型車19台に転用可能)が駐車可能な、南北2棟の立体駐車場を整備します。
- 六甲山を背景とした公園全体の景観と調和するよう、地形に沿った高さや配置とします。
- 建物デザインは、外壁の色分けや素材の使い分けにより、周囲への圧迫感を軽減します。
- 外装色は公園の風景になじむ主張を抑えた色彩とし、シンボルプロムナード側の低層部は壁面緑化により周辺の緑と調和する外観とします。

■ゾーニングと動線

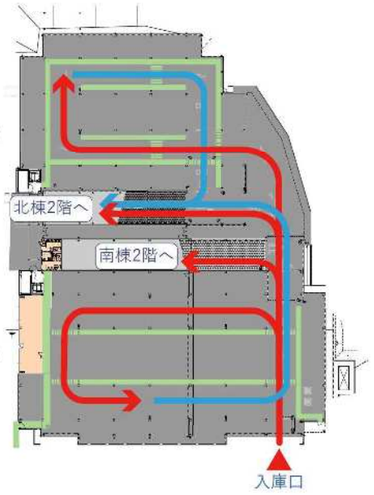
- 遠足等によるバスでの来園者に対応するため、アクセスしやすい南棟1階はバス用駐車場(19台)として転用できる計画とします。
- 立体駐車場南側には、バス専用の乗降スペース(3台分)を設け、乗降時の利便性と安全性を確保します。



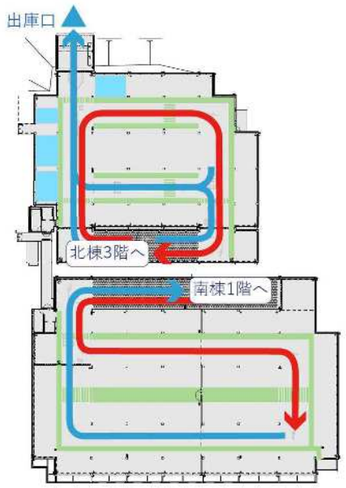
西面立面図



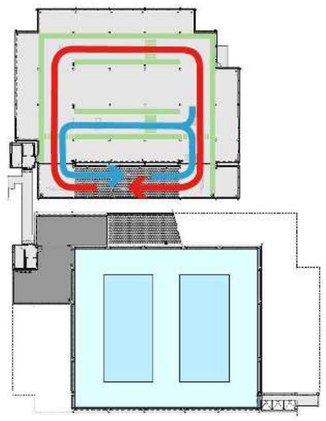
1階平面図
バス動線



1階平面図
一般車動線



2階平面図



南棟3階・北棟3-5階平面図

0 10 25 50m

バス動線
主な入庫動線
主な出庫動線

■駐車場利用者へわかりやすい案内

- 駐車場入口部に棟別及び階別満空表示を設置することで、入庫時に空車の階がわかりやすく視認できるようにします。

2.屋上テニスコート

- 立体駐車場棟の屋上にはハードコートを2面整備します。
- 休憩できるスペースとして日除けベンチを設置します。
- 防球ネットを設置し、屋根面も覆うことで、コート外へのボールの飛び出しを防止します。

屋上テニスコート　イメージ

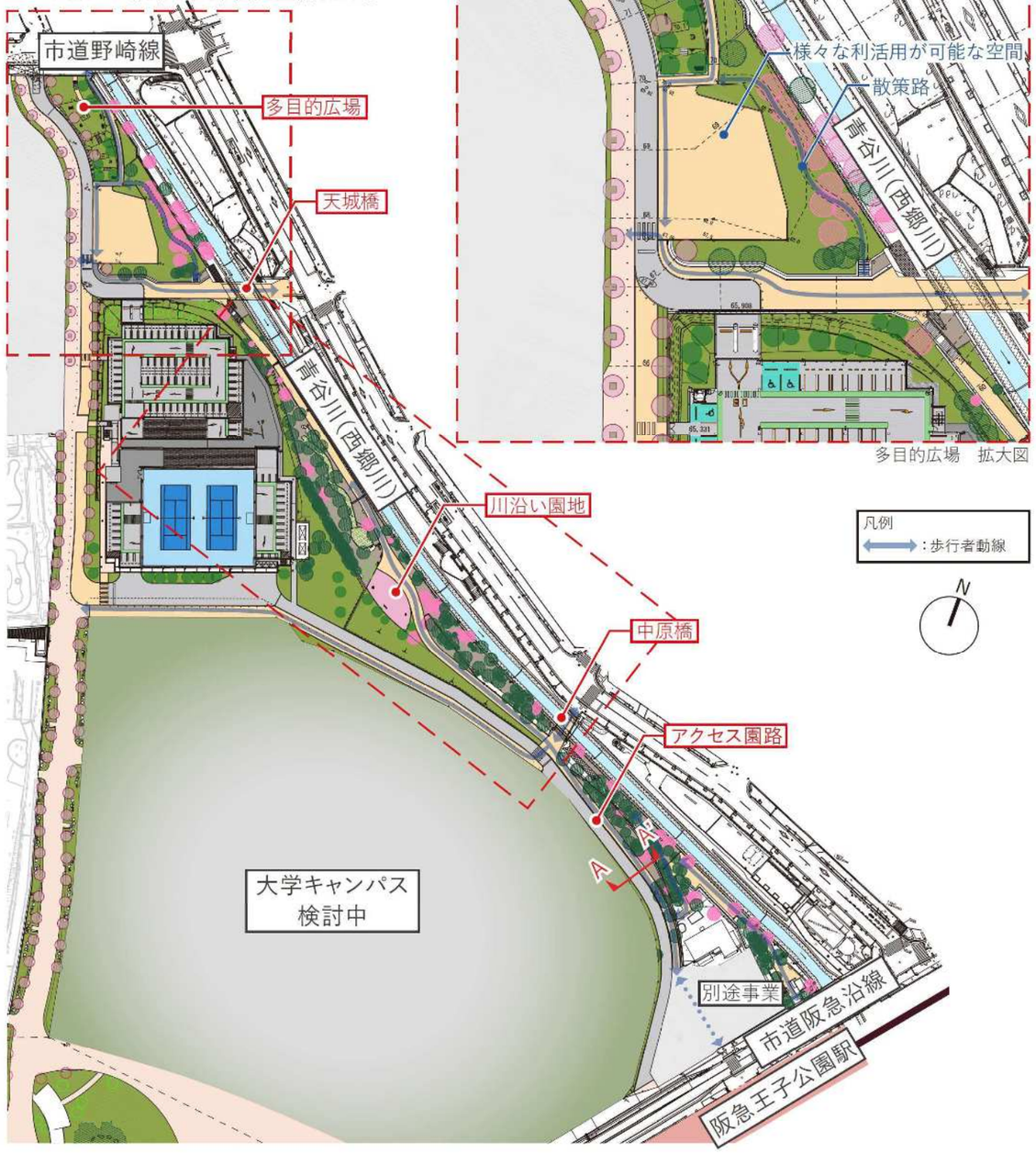
立体駐車場棟　北西外観イメージ

立体駐車場棟　南東外観イメージ

Ⅵ.青谷川沿い（多目的広場(東側)、川沿い園地、アクセス園路、公園橋）

1. 多目的広場(東側)

- 公園北側のエントランスにふさわしい開放的で多目的に利用できる広場を整備します。
- 地形を活かした、なだらかな芝生の空間を整備し、健康器具を配置します。
- ラジオ体操など様々なシーンで利用できるとともに、バスの臨時駐車場としても転用できる空間を整備します。
- 川沿いに散策できる園路を整備します。



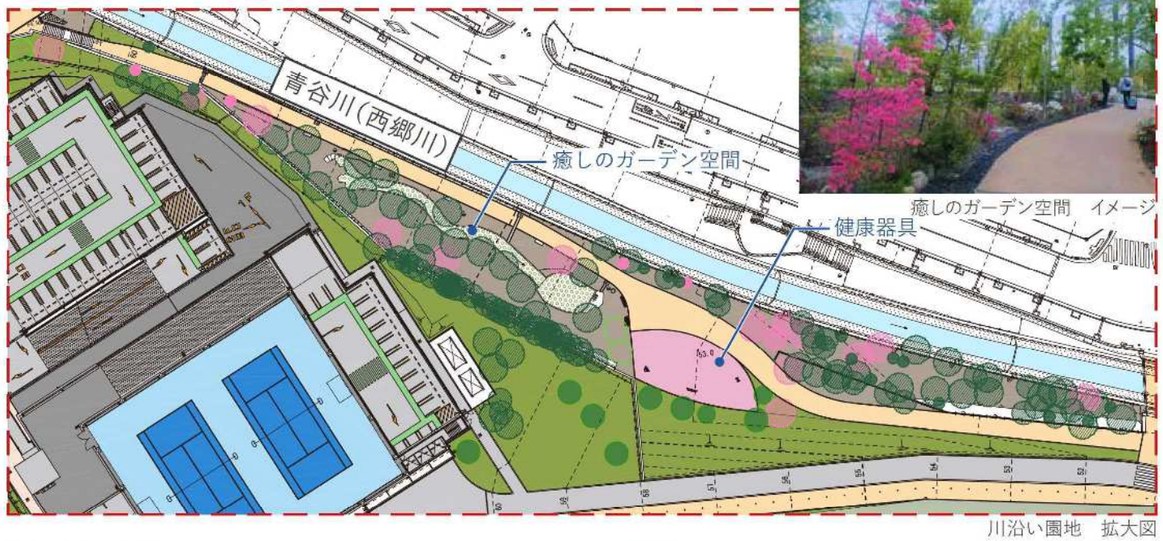
多目的広場　拡大図

2. 川沿い園地

- 青谷川沿い（市道阪急沿線～天城橋）に、川の音を聞きながら緑陰のなかを散策できる遊歩道として、既設の園路の雰囲気を活かしつつさらなる高質化を図ります。
- 既存の石組エリアに、四季折々の彩のある植栽を施し、癒しのガーデン空間を整備します。
- 広場部分に健康器具を設置するほか、随所にベンチを設置し、散策しながら健康づくりができる遊歩道とします。

川沿い園地の健康器具　イメージ

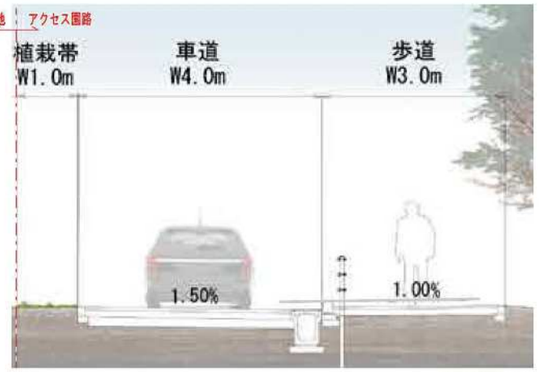
癒しのガーデン空間　イメージ



川沿い園地　拡大図

3. アクセス園路

- 市道阪急沿線から立体駐車場へ接続する車両の動線を整備するとともに、歩車分離により歩行者の安全を確保した遊歩道を整備します。
- 歩道部分は景観と調和した自然色系の舗装とします。
- 歩行者の安全を確保するため、ボラードや防護柵等の設置を行います。



A-A'断面図

4. 公園橋

(1). 天城橋

- 災害時に大型緊急車両などが通行する緊急車両動線であることから、十分な耐震性を確保する必要があるため、架替えを行います。

天城橋(架替え後)の諸元

項目	内容
橋梁形式	イージーラーメン橋
橋長	14.5m
総幅員	6.7m

(2). 中原橋

- 歩行者専用橋として、利用者の安全性の向上と周辺環境との調和を図るため、改修を行います。

Ⅶ.植栽計画

1. 計画コンセプト

- 歴史と四季が感じられる活き活きとした新たな森づくり

2. 植栽計画の方針

- 桜の名所として親しまれた歴史をふまえ、引き続きサクラの維持・拡充を図ります。
- 公園におけるシンボルとなっている大径木(クスノキ等)を保全します。
- 青谷川沿いの豊かな樹木を保全します。
- 老木や腐朽等が見られる健全度の低い樹木は、安全性の観点から伐採します。また、施設や工事の支障となる樹木も伐採しますが、新たに植樹を行うことで従前と同等の本数を確保します。
- 新たに植樹する樹木は、修景のみならず管理の観点を踏まえた樹種を選定するとともに、将来の樹形・樹冠に配慮します。
- 快適な緑陰を創出し、利用者が憩い、集える緑化空間をつくります。
- 新たな「原田の森」の創出を目指して、シンボルとなるサクラや既存の大径木に加えて、四季を楽しめる植栽(カエデ類)や神戸らしい植栽による空間演出を行います。

①緑のエントランスゾーン(緑の広場):公園のエントランスとなる開放的な空間

- メインエントランスにふさわしい景観となるよう魅力ある植栽を行います。
- 公園のシンボルであるクスノキなどの大径木を保全します。
- 要所にサクラの植樹や草花の植栽を行うことで、季節感を演出します。
- 修景効果が高く、イベント利用や気軽に憩うことができる芝生広場を整備します。
- 周囲の街路樹等と一体となった景観形成に配慮します。

②シンボル桜ゾーン(シンボルプロムナード):新たな「桜の名所」となる空間

- 公園のシンボルとして、新たにサクラ並木を両サイドに整備します。
- 倒木のリスクがある樹木や、樹形の乱れにより景観を阻害する樹木等、安全性や景観上課題のある樹木については、原則伐採します。
- 並木を健全に維持するため、十分な植栽間隔を確保するとともに土壌改良を行います。
- サクラ以外の季節も散策したくなるような、季節感を演出する Naturalistic Landscaping* による植栽を行います。

*Naturalistic Landscaping とは
植物の芽吹き～枯れるまでの変化を感じられる多年草を中心にして、四季の変化を見せる植栽風景をつくる手法

シンボルプロムナード　イメージ

配置イメージ

③せせらぎ緑陰ゾーン(川沿い園地):季節が感じられ自然に癒される空間

- 園路や広場に緑陰を与え、季節を演出します。
  ※樹種例:アジサイ , シャクナゲ , シャガ , ツワブキ等
- 川の音や木漏れ日など、五感を使って癒しを感じられる高質な植栽空間を整備します。

癒しのガーデン空間　イメージ

4. 高木本数

- 大学ゾーンも含めた公園全体で、サクラを含む樹木（サクラおよびサクラ以外の樹木のうち幹周り約1m以上を対象）について、新たな植樹などにより従前以上の本数を確保することとしており、東エリアにおいても、従前と同等の本数を確保します。

東エリア　従前　　323本
　　再整備後 323本　内訳:保全対象155本/移植対象14本/新植154本
　　/伐採・資源化対象154本（うち倒木の恐れがあった樹木15本は伐採済み）

5. 伐採木の資源化

- 再整備に伴って伐採する樹木については、樹種の特性に応じて資源化をすすめます。

〈例〉・建築物（メインゲート、トイレ棟等）の室内サイン
　　・室内家具等のファニチャー
　　・木チップ化

KOBE WOOD

伐採木の資源化　イメージ

Ⅷ.防災計画・照明計画・動線計画・高温常態化対策（グリーンインフラ）

1. 防災計画

■災害時の公園施設の計画趣旨

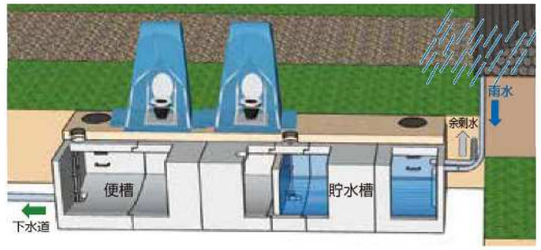
- 王子公園は阪神・淡路大震災の経験を活かし、今後とも地域住民の屋外避難場所や全市的な広域防災拠点として大きな役割を果たしていくため、本事業においても防災機能を強化します。

①屋外の緊急避難場所の確保

- 緊急時に安全に避難できるよう、緑の広場や多目的広場、シンボルプロムナード等において十分なオープンスペースを確保します。

②広域防災拠点としての機能強化

- 新スタジアムや各広場、大学キャンパスが一体となって様々な防災活動を担うために、緊急車両動線を確保します。
- 緑の広場では、災害による断水時でも必要水量が確保できるよう、雨水貯留槽と直結したマンホールトイレを配備します。
- 災害発生後の炊き出しなどで活用できるかまどベンチを整備します。



マンホールトイレ　イメージ図

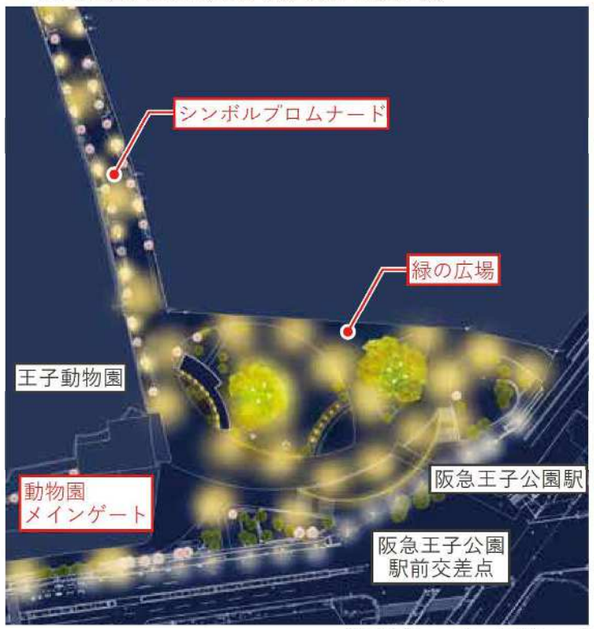
マンホールトイレ　イメージ

かまどベンチ　イメージ

2. 照明計画

■照明計画の考え方

- 緑の広場やシンボルプロムナード等において、樹木や広場空間を電球色のスポットライト等でライトアップし、美しく温かみのある魅力的な夜間景観を創出します。
- 下方配光の照明器具を効率的に設置することで、主要な園路及び階段、出入口等において必要な照度を確保し、公園利用者にとって安全、安心な照明計画とします。

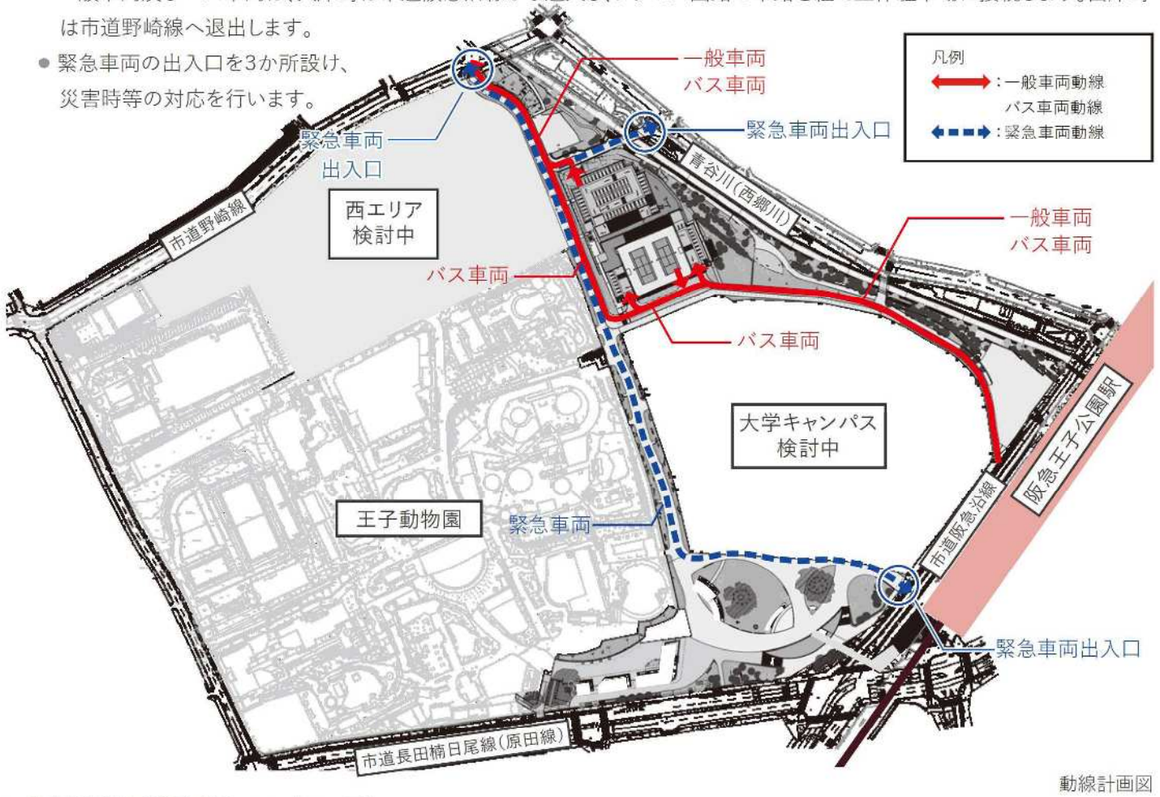


緑の広場　ライティングマップ

照明　イメージ

3. 動線計画（車両）

- 一般車両及びバス車両は、入庫時は市道阪急沿線から進入し、アクセス園路の車路を経て立体駐車場に接続します。出庫時は市道野崎線へ退出します。
- 緊急車両の出入口を3か所設け、災害時等の対応を行います。



動線計画図

4. 高温常態化対策（グリーンインフラ）

■屋根付きパーゴラの設置

- 涼しい空間を形成するために、屋根付きのパーゴラを「緑の広場」に2ヶ所設置します。
- パーゴラの下にテーブルやベンチを設置し、夏期における利用促進を図ります。

緑の広場トイレ棟横　イメージ

親水空間前　イメージ

■緑陰を形成する樹木の配置

- 緑陰を形成している大径木（クスノキ）を保全します。
- 園地・園路内において新たな緑陰を形成するため、常緑樹や季節感を演出する落葉樹を植栽します。
- 植栽にあたっては、風通しに配慮します。

■透水性舗装による雨水浸透効果

- 園内の舗装については、原則、雨水を浸透させ、都市気象の緩和・環境負荷低減につながる透水性舗装を採用します。

■芝生広場や緑地帯による地表面温度の低減

- 王子公園の東側には、青谷川に沿って既存の豊かな緑地を保全します。
- アスファルト舗装の駐車場を芝生広場に転換するなど、緑地面積を増大させることにより、地表面温度の低減を行います。